

相次いだ不祥事、信頼回復図る

保険薬局の動向

2017年の保険薬局業界では、立て続けに薬剤師・薬局を巡る不祥事が発生した。17年1月には医療用医薬品の偽造品流通問題、4月以降には調剤報酬に関わる不正請求問題、いわゆる処方箋付け替え請求などが発覚した。こうした不祥事を2度を招かないという思いで、業界関係者らは失った信頼の回復に努めており、その取り組みや成果が注目される。

昨年1月、業界関係者らに衝撃を与えたのが、C型肝炎治療薬の偽造品問題だ。奈良県内の薬局チェーン「サン薬局」の店舗でC型肝炎治療薬「ハーボニー配合錠」の偽造品が調剤され、患者の手に渡ってしまうという事件。偽造品は、現金問屋といわれる東京のエール薬品が個人から仕入れたもので、次々に同業に転売され、サン薬局に流れたという流通経路が判明している。

こうした事態を受け3月には厚生労働省が偽造品流通防止に向けた検討会を立ち上げた。6月に中間とりまとめ、12月には最終報告書案を大筋でまとめた。国際的な「医薬品適正流通基準」であるGDPに準拠した国内

向けのガイドラインを整備し、自主的な取り組みを促すほか、医薬品卸売販売業の業務体制に係る基準を設け、許可基準に盛り込むことも求めた。不正な取引を行った薬局開設者の罰則のあり方をさらに検討する必要性も指摘。調剤業務を行わず、他の薬局などへの医薬品の販売・授与が業務の中心になっている薬局には、卸売販売業の許可を取得するよう促すことも盛り込んだ。

また、昨春以降は調剤薬局チェーンで処方箋の付け替えによる不正請求が相次いで発覚した。

最初に不正行為が発覚したのはクオール。4月、同社の「クオール薬局秋田飯島店」（秋田市）で、調剤報酬の調剤基本料を高く算定するため、他薬

局の処方箋を受け付けたとする付け替え請求を行っていたことが発覚した。その後、8月にはアイセイ薬局が一部の薬局で処方箋の不適切な取り扱いがあったことを発表。10月にはクラフトが同社の「さくら薬局相馬店」（福島県相馬市）で、調剤報酬の付け替え請求が行われていたことを明らかにした。

3例目のクラフトのケースは、同社も会員である日本保険薬局協会（NPPhA）が会員に対して自主点検を実施し、クオール、アイセイ薬局を除いて不正の事例報告は無かったと公表した後に発覚したことから、自主点検の信頼性に疑問符が付く結果となった。

こうした状況を受けて、NPPhAではコンプライアンスの研修会を実施する等の対応を進めると共に、自主点検のやり直しも検討。前回とは異なった形での実施を念頭に、具体的な実施方法を検討している。

一方、「患者のための薬局ビジョン」を実現するためのアクションプランがまとまり、今後の薬局の進むべき基本

的方針が示されている。4月、厚労省は非公開で検討してきた「患者のための薬局ビジョン実現のためのアクションプラン検討委員会」の報告書をまとめた。

アクションプランでは、薬剤師・薬局、国・自治体、関係団体が取り組む事項をそれぞれ明記。薬剤師に関しては、服薬情報の一元管理や24時間対応・在宅対応、地域の医療機関等との連携などが挙げられている。

薬局の取り組みの進捗状況を評価するための指標（KPI）も設定。服薬情報の一元的・継続的の把握に関する指標に「電子版お薬手帳を導入している薬局数」、24時間対応・在宅対応に関する指標に「在宅業務を過去1年間に平均月1回以上実施した薬局数」、医療機関等との連携に関する指標に「地域ごとの地域包括ケアシステムに関する内容を含む研修を修了した薬剤師のいる薬局数」などだ。また、KPIの設定に関しては、「薬局ビジョン実現の目的を達成する手段であり、それ自体を目的としてはならない」と強調した。

関係団体に対しては、薬局が一体となって取り組んでいけるよう地域の実情に合わせた評価指標の設定も検討すべきと独自の行動を促している。

調剤事業など強化し再び成長

ドラッグストアの動向

ドラッグストアの2016年の売上規模は約6兆5000億円となり、その規模は百貨店を超えた。人口減少や高齢化の進展が深刻化する中、街や地域におけるドラッグストアの存在はますます大きくなり、期待される役割や機能も非常に多岐にわたってきている。業界成長に陰りが見え始めた12年頃の“成長の踊り場”を経て、様々な再成長戦略を講じ、“ドラッグストア再成長元年”とした16年は大きく伸長（前年比106%）。25年の業界規模10兆円を目指し、現在、強力に活動を行っている。

日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）がまとめた17年後期版の「ドラッグストア業界研究レポート」

によると、6兆4920億円だった16年の売上規模は、JACDSが設立された99年と比べ、約3倍の規模となっ

ている。近年のドラッグストアの成長の背景には、毎年400店前後の新規出店があったが、16年のドラッグストア店舗数は1万8874店舗で、調剤併設ドラッグストアも約8000店舗という状況。「毎年400店舗くらい増加しているが、このままの状態では10年が経つと約4000店舗の増加。さらにそのスピードを上げていこうというのが業界の考え方」（JACDS）としている。

また、ドラッグストアの成長要因としては、①面分業の増加に伴う調剤事

業の伸長②既存食品の購入の高まり③中国をはじめとする訪日外国人によるインバウンド需要の高まり——などが指摘されている。特に、処方箋調剤においては、来店客数の増加と来店時の買い物（ワンストップショッピング）の増加によって、調剤併設店舗には堅調な伸びが見られる傾向だ。

そうした中、ドラッグストア業界では現在、再成長を目指して強力な活動を展開。25年の業界目標を計画し、実現に向けて業界一丸となって取り組んでいる。25年の業界目標としては、▽ドラッグストア業界規模—10兆円産業化の実現（健康インフラ）▽ドラッグストア業界店舗数—3万店舗（商



大阪本社

生薬に一意専心

わたしたちは
自然の恵みを大切に活かし
人々の健康と幸せを応援します！



漢方薬局ハレノワ



寝屋川物流センター



高槻物流センター



柏原工場



Tochimoto Lao Sole Co., LTD.



栃本天海堂 福知山園地



栃本天海堂薬局 福島店



安心・安全への取り組み

- 生薬資源の栽培化
資源の枯渇を防ぐために自社栽培を事業化。
- 種苗・栽培・加工管理
国内外の農家に協力を依頼し、原料を一元管理。
- 残留農薬の管理
管理農薬(有機塩素系・有機リン系・ピレスロイド系・カーバメート系・トリアゾール系など・・・452成分)

漢方薬の輸入・製造・販売を一貫して行う
漢方専門総合卸す

株式会社 栃本天海堂

〒530-0053 大阪府大阪市北区末広町3番21号
TEL 06-6312-8425
URL <http://www.tochimoto.co.jp/>